

平成 21 年度 経済学部活動報告

◆ 環境方針

<基本理念>

本学部は、教育および研究を通して、環境改善の啓発活動および環境保全活動を積極的に実施し、環境に配慮できる人材を育成することを社会的使命として認識し、持続可能な社会の発展に貢献する。

<行動指針>

- 1) 環境マネジメントシステムを構築し、環境マネジメントシステムの全容を全ての教職員、学生に周知し、これを継続的に運用して改善を図る。
- 2) 環境に関する教育研究活動を実施し、環境保全にかかわる意識を高め、環境保全活動を普及し、環境に配慮できる人材を育成する。
- 3) 環境保全および改善のために省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル、グリーン購入を積極的に実施し、環境負荷の低減に努める。
- 4) 教育・研究・学内行政などあらゆる活動において、環境に関連する法令、条例、協定および学内規程等を遵守する。
- 5) あらゆる人に環境活動レポートを公開し、環境保全および改善に対する、本学部の取り組みへの協力と理解を求める。

◆ 環境目標

	環境目標	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1	二酸化炭素排出量(電気使用量)の削減 (平成19年度実績をベースに平成23年度までに2%削減する)	kwh	1%削減	2%削減	2%削減
2	コピー用紙使用量の削減 (平成20年度実績をベースに平成23年度までに3%削減する)	枚	2%削減	2%削減	3%削減
3	使用水量の削減 (平成17年度実績をベースに平成23年度までに2%削減する)	m ³	1%削減	2%削減	2%削減

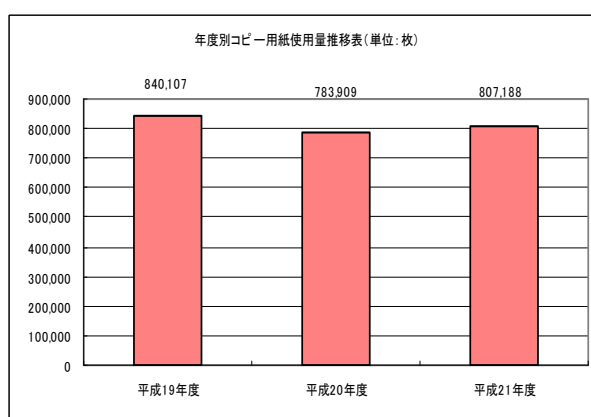
◆ コピー用紙使用量の削減

平成 21 年度におけるコピー用紙使用量は、平成 20 年度比で約 3.0%増加しており、環境目標を達成することはできなかった。これまでコピー用紙使用量の評価の対象としていなかったコピー用紙の購入量を平成 20 年度の重量で比較すると、平成 21 年度は 504 kg 増加している。この原因は、平成 21 年度末の 2 月および 3 月に平成 22 年度分のコピー用紙を前倒しで購入しており、その重量が 740 kg となったことにある。この前倒し分を差し引くと、平成 21 年度の購入重量は平成 20 年度比で 236 kg 減少しており、平成 21 年度分のコピー用紙の購入量は減少している。

環境目標であるコピー用紙使用量の削減に用いている数値は、コピー機および印刷機のカウンターの数値である。平成 21 年度のカウンター数は平成 20 年度比で約 3%増加しているが購入量は前倒し分 (740 kg) を除くと平成 20 年度比で約 6.5%減少している。購入量は減少し、カウンター数が増加しているということは、コピー機および印刷機でコピーや印刷する量は増えているが、両

面印刷が浸透し、コピー用紙自体の使用量は減少していると考えられる。

また、平成 21 年度において紙ゴミ回収ボックスで回収した紙の量は、1,268.6 kg であった。今後も紙ゴミ回収への分別を徹底していく。



◆ 二酸化炭素排出量（電気使用量の削減）

平成 21 年度における二酸化炭素排出量（電気使用量）は、平成 19 年度比で約 12.5%減少しており、環境目標を達成している。教授会や学生への環境教育で使用していない部屋の消灯およびエアコンの設定温度等を周知したことによる効果が現れている。今後もさらなる電気使用量の削減に取り組む。

◆ 使用水量の削減

平成 21 年度における使用水量は、平成 17 年度比で約 14.3%減少しており、環境目標を達成している。平成 20 年度は、改修工事のため、経済学部 1 号館 1 階の多目的室が教養教育の非常勤講師控室として使用されることとなり、一日平均 20 名程度の非常勤講師が経済学部 1 号館に滞在し、これまで水の使用がなかった部屋で水の使用が始まったこと、およびトイレ等の使用が増えたことから使用水量が増加した。しかし、平成 21 年度は改修工事が終了したことから、環境目標を達成できたと考えられる。また、平成 21 年 3 月に経済学部 1 号館の 2 階および 3 階に飲料用水道を設置したことから、平成 22 年度はさらなる使用量の削減が期待できる。

◆ 代表者による全体の評価と見直し

（実績と目標）

二酸化炭素排出量（電気使用量）の削減および使用水量の削減については、環境目標の目標値を達成しており、評価できる。特に平成 20 年度は使用水量が大幅に増加したが、平成 21 年度は平成 19 年度の水使用量以下の使用量となったことは評価できる。

また、平成 21 年度末には経済学部 2 号館のトイレの改修工事が完了し、人感センサーが導入されたことから、平成 22 年度以降の電気および水道の使用量が削減されることが期待される。

コピー用紙使用量の削減に関しては、コピー機・印刷機のカウンターで計測した数値は目標未達であり、コピー用紙購入量も平成 21 年度は 20 年度よりも増加している。ただし、購入されたうちには平成 22 年度分を前倒したのもかなり含まれており、それを考慮した量をみると 21 年度の前購入量は減少している。ゆえに、21 年度は購入量に比してカウンターの数値の増加が目立つということが言え、そのことは両面印刷や電子文書での資料配布がより浸透してきた結果であるとの推量も可能である。

以上から、平成 22 年度のコピー用紙の使用量についてはカウンターによる計測とコピー用紙の購入量から評価し、両面印刷等を徹底し、コピー用紙の使用量の減少に結びつくことが期待される。

（啓発と教育）

廃棄物の削減については、平成 21 年度から紙ゴミ回収ボックスを経済学部棟内 6 箇所に設置した。平成 21 年度は紙ゴミが 1,268.9 kg 回収された効果は大きく、さらに紙ゴミの回収は学生が行っており、学生の環境意識の向上につながっていると考えられる。

そして、平成 21 年度は新入生オリエンテーションの際に、エコアクション 21 の活動について説明し、新入生に環境保全活動の周知を図った。さらに、大学入門科目の一環として環境教育を実施し、新入生に環境保全活動の周知を図った。

平成 22 年度は建物の大幅な改修は予定されておらず、設備投資による環境負荷の削減効果は期待できないが、今後も教職員および学生一人一人の環境保全活動に対する意識を高め、教職員および学生が一体となって環境負荷の低減を目指したい。

